

MUSEUM CALENDAR

展覧会スケジュール
2015.4 - 2016.3



秋野不矩 <三尊像> 1986年

浜松市
秋野不矩
Akino Fuku Museum
美術館

秋野不矩美術館 平成27年度 展覧会スケジュール

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会期	4/1~4/19	4/25~6/7		6/20~7/26	7/28~9/6	9/12~10/4	10/10~11/15	11/20~12/20	12/22~1/24	1/30~3/13		3/18~3/31
第1展示室	第一回所蔵品展 秋野不矩創作の旅路Ⅰ 〜ふるさと天竜川〜	特別展 「加山又造展」		第二回所蔵品展 秋野不矩創作の旅路Ⅱ 〜インドの大地を行く〜	第三回所蔵品展 秋野不矩創作の旅路Ⅲ 〜子どもたちを見つめて〜	静岡県立美術館 移動美術展	特別展 「入江一子展」	第四回所蔵品展 秋野不矩創作の旅路Ⅳ 〜神々への巡礼〜	第五回所蔵品展 秋野不矩創作の旅路Ⅴ 〜世界を旅する〜	特別展 「畠中光享展」		第六回所蔵品展 〜新たな日本画への挑戦〜
第2展示室												
企画展示室												

*日程等については、その都度、広報紙・チラシでお知らせします。美術館のホームページでもご案内しています。
※スケジュールは、都合により日程・内容等を変更することがあります。

加山又造(かやま またぞう、1927-2004)は、創画会を舞台に活躍した戦後の美術界を代表する日本画家です。京都生まれ、京都市立美術工芸学校修了ののち東京美術学校(現 東京藝術大学)へ進み、その後創造美術(現 創画会)の創立会員である山本丘人に師事しました。1949(昭和24)年から創造美術に出品参加し、新制作協会日本画部、創画会に所属して制作を続けました。
大和絵、琳派、水墨など日本画の伝統を踏まえつつ、西洋美術的な表現をも取り込んでいった革新的で華麗な画風により、日本国内にとどまらず海外からも高い評価を受け、2003(平成15)年には文化勲章を受章するなど、日本画壇のスターとして長く活躍しました。
本展では、画業初期から晩年に至る作品の数々を通じて、現代における日本画のあり方を絶えず模索し続けた創作活動の成果を通観し、画家・加山又造の「伝統と革新」に迫ります。また、創画会で共に新しい日本画の創造に向かって制作に助んだ秋野不矩の作品約7点を特別出品します。



加山又造 <淡月> 1996年 姫さくら美術館所蔵
加山又造 <人と船> 1957年 福井県立美術館所蔵

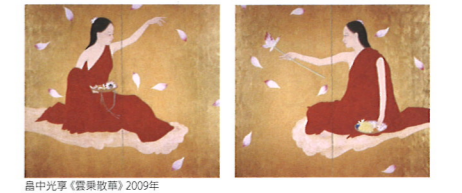
静岡県立美術館では、同館から遠く離れた県内各地域の方々へ所蔵美術品の鑑賞機会を提供するために移動美術展を実施しており、今年度は秋野不矩美術館で開催します。2,600点余りに及ぶ県立美術館所蔵品の中からテーマに沿って厳選した作品を展示し、会期中、無料にてご覧いただけます。

入江一子(いりえ かずこ、1916-)は、シルクロードをテーマに創作を行っている洋画家です。幼少期を韓国・大邱(テグ)で過ごし、女子美術専門学校(現 女子美術大学)では文化勲章受章の洋画家・林武に学び、以後生涯師事しました。1947(昭和22)年、女流画家協会に創立会員として参加、1957(昭和32)年には独立美術協会会員に推荐され、現在まで約70年間に渡り作品を出品し続けています。
大陸で見た夕日の沈む雄大な光景に大きな感動を覚え、シルクロードの色彩鮮やかな風景やその土地で暮らす人々の文化に魅了された画家は、以来30余ヶ国にわたりシルクロードの国々を訪れ、そのすがたをライブワークとして描き続けています。本展では、画家がシルクロードを旅するその時々で受けた情感を、色彩に込めて描き出した作品の数々を展示します。
また、秋野不矩もインドの壮大な風景や人々の暮らしぶりに新鮮な感動を味わい、現地の雄大なかつ素朴な営みを色彩豊かに描いたため、約7点を特別出品します。



入江一子 <イスタンブールの朝焼け> 1974年
入江一子 <ラグダックヘミス昼> 2010年

畠中光享(はたなか こうきょう、1947-)は、インドにおける仏伝(釈尊の伝記、思想)をテーマに創作を行っている日本画家です。1974(昭和49)年、インドを初訪問した時に影響を受け、現在の作風につながる絵画表現を獲得しました。既存の美術団体にとられないグループ展や個展を中心に活動を行っており、日本画家ではありませんがインドや仏教といった題材を扱いながら、常に日本画の新たな可能性を追求した創作を行っています。日本画材料がもつ色彩の美しさを大切にし、水墨による確かな線描と天然の岩絵具による鮮やかな色彩により描く作品は、モチーフのもつ物的な本質を画面に捉え、平面性、象徴性をもたせた明快な表現で映し出します。
本展では、日本絵画の伝統と融合しながら絶えず革新を続け、洗練された絵画表現に取り組む画家の、インドを主題とする作品を中心に約22点を展示します。また、秋野不矩もインドを主たるテーマとして創作に取り組み、インドの情景を象徴的かつ色鮮やかに描いていることから、特別出品として約8点を展示します。



畠中光享 <雲集歌集> 2009年

秋野不矩美術館 休館日カレンダー 2015~2016

4	5	6	7	8	9
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
10	11	12	1	2	3
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

□は休館日となります

【利用案内】

開館時間 午前9時30分~午後5時
休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替期間、くん蒸期間
*但し、展覧会により休館日が異なるため、左記カレンダーをご覧ください。

観覧料 (所蔵品展)	個人		団体	
	大人	300円	20名以上▶240円、80名以上▶180円	
高校生	150円	20名以上▶120円、80名以上▶90円		
中学生以下・70歳以上・障害者手帳所持者…無料				

※特別展開催中は別料金となります。
【市民ギャラリー(2F)ご利用のご案内】
使用料 入場料を徴収する場合…1日19,440円
入場料を徴収しない場合…1日 6,480円

浜松市 TEL.431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣130
TEL.053-922-0315 FAX.053-922-0316
ホームページ 「浜松市役所」ホームページを開き
美術館 「秋野不矩美術館」を検索
e-mail tn-art-muse@city.hamamatsu.shizuoka.jp

電車利用
●JR東海「掛川駅」より
天竜浜名湖鉄道に乗り換え「天竜二俣駅」下車、徒歩15分。
●JR東海「浜松駅」より
遠州鉄道に乗り換え「西鹿島駅」下車、徒歩7分。「秋野不矩美術館入口」(約7分)下車、徒歩7分。
「西鹿島駅」よりタクシーで約7分。
車利用
◎新東名「浜松浜北1C」から約10分 ◎東名「浜松1C」から約35分
◎新東名「浜松Sスマート1C」から約20分 ◎東名「袋井1C」から約30分

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>館藏品展</p> <p>～粋な謎解き～ 見立て浮世絵の世界</p> <p>4月23日[木]～6月5日[金]</p> <p>江戸の知的なあそび心「見立て」を浮世絵版画・硯・茶道具などで紹介します。</p> <p>同時開催：珠玉のガラス絵展</p>  <p>《見立三十六歌浜之内凡内内納目・舎人さくら丸》三代歌川国直</p>  <p>《川岸洋傘をさす女》ガラス絵</p>	<p>特別展</p> <p>マリー・ローランサン展</p> <p>6月20日[土]～8月23日[日]</p> <p>マリー・ローランサン(1883-1956)は、20世紀前半のパリにおいて、独自の淡く美しい繊細な色彩で人々を魅了し、今もフランスのみならず、世界中で愛され続けている女性画家のひとりです。</p> <p>本展では、彼女の新しい作品世界を探求した画家としての足跡に迫ります。甘美さ、軽やかさ、かわいらしさを芸術にまで高めた彼女の創作の輝きを、マリー・ローランサン美術館が所蔵する油彩を中心とした約70点の作品で紹介いたします。</p>  <p>《建物》1927年頃 マリー・ローランサン美術館蔵 ©ADAGP/Paris&JASPAR/ Tokyo, 2014 E1368</p>  <p>《三人の若い女》1953年頃 マリー・ローランサン美術館蔵</p>	<p>特別展</p> <p>第9回浜松国際ピアノコンクール開催記念 エリック・サティとその時代展</p> <p>9月12日[土]～11月1日[日]</p> <p>フランス音楽界が誇る異才であり、後のBGMやミニマル音楽、イージーリスニングなど、現代音楽の礎を築いた音楽家、エリック・サティ(1866-1925)。</p> <p>その生涯は、彼の音楽同様に、既存の価値観に縛られない自由さに溢れ、ピカソやピカビアなど、多くの芸術家を惹きつけて止みませんでした。</p> <p>本展では、サティが刺激を与え合った芸術家たちの作品を通して、彼の魅力に迫ります。</p>  <p>《外国人のためのモンマルトル案内(のためのポスター)》ジュール・グリュン 1900年 モンマルトル美術館 ル・ヴュー・モンマルトル・コレクション蔵</p>	<p>企画展</p> <p>そみやいちねん やまもときゆうしん 曾宮一念と山本丘人 ～海山を描く、その動と静～</p> <p>11月14日[土]～12月25日[金]</p> <p>全国各地を放して海と山をモチーフに描き続け、今なお清冽な生き方と作風が多くの人に愛されている洋画家・曾宮一念(1893-1994)。</p> <p>やまと絵の柔らかな作風から堅牢で剛直な側面を併せ持つ作風へと展開し、戦後の日本画壇を終始リードした山本丘人(1900-1986)。</p> <p>日本の海山を愛し、詩情あふれる風景を描いた二人の代表作約100点を紹介する展覧会です。</p>  <p>《夏涼る時》山本丘人 1979年 美術館蔵 山本丘人記念館蔵</p>  <p>《新緑の秋》曾宮一念 1941年</p>	<p>館藏品展</p> <p>美・愛・真を求めて ～近代日本絵画の心～</p> <p>2月27日[土]～3月31日[木]</p> <p>個人コレクターが収集した戦前、戦後の芸術家、文化人等のサインを取めた「美愛真帖」と合わせ、当館所蔵の近代日本絵画の名品を紹介します。</p>  <p>《心》(「美愛真帖」より)梅原龍三郎</p>  <p>《万葉集》梅原龍三郎</p>							

公募展

浜松市芸術祭 第63回 市展

2月3日[水]～2月14日[日]

※作品受付は1月上旬予定

浜松市美術館 休館日カレンダー 2015～2016

■は思いやりトーク&キッズウェルカムデー □は休館日となります

4	5	6	7	8	9
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
5 6 7 8 9 10 11	3 4 5 6 7 8 9	7 8 9 10 11 12 13	5 6 7 8 9 10 11	2 3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12
12 13 14 15 16 17 18	10 11 12 13 14 15 16	14 15 16 17 18 19 20	12 13 14 15 16 17 18	9 10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19
19 20 21 22 23 24 25	17 18 19 20 21 22 23	21 22 23 24 25 26 27	19 20 21 22 23 24 25	16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26
26 27 28 29 30	24 25 26 27 28 29 30	28 29 30	26 27 28 29 30 31	23 24 25 26 27 28 29	27 28 29 30
	31			30 31	
10	11	12	1	2	3
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
4 5 6 7 8 9 10	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5	1 2	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5
11 12 13 14 15 16 17	8 9 10 11 12 13 14	6 7 8 9 10 11 12	3 4 5 6 7 8 9	7 8 9 10 11 12 13	6 7 8 9 10 11 12
18 19 20 21 22 23 24	15 16 17 18 19 20 21	13 14 15 16 17 18 19	10 11 12 13 14 15 16	14 15 16 17 18 19 20	13 14 15 16 17 18 19
25 26 27 28 29 30 31	22 23 24 25 26 27 28	20 21 22 23 24 25 26	17 18 19 20 21 22 23	21 22 23 24 25 26 27	20 21 22 23 24 25 26
	29 30	27 28 29 30 31	24 25 26 27 28 29 30	28 29	27 28 29 30 31

【利用案内】

開館時間 午前9時30分～午後5時
休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
※但し、展覧会により休館日が異なるため、左記カレンダーをご覧ください。
年末年始(12月29日～1月3日) 及び展示替期間

観覧料 (館藏品展)	個人		団体	
	大人	300円	20名以上▶240円、80名以上▶180円	
	高校生	150円	20名以上▶120円、80名以上▶90円	
	中学生以下・70歳以上・障害者手帳等所持者…無料			

※特別展・企画展・公募展開催中は別料金となります。

思いやりトーク&キッズウェルカムデー
毎週水曜日は、作品を見ながら、「すていね!」「おもしろいね!」と感動を伝え合いながらの鑑賞が楽しめます。

浜松市美術館 〒430-0947 静岡県浜松市中区松城町100-1
TEL.053-454-6801 FAX.053-454-6829

ホームページ <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/artmuse/index.htm>
e-mail art-muse@city.hamamatsu.shizuoka.jp
twitter <http://twitter.com/hamamatsushibi>



バス利用 JR浜松駅北口(遠鉄バス)バスターミナル①番乗り場、乗車約8分「美術館」下車。
車利用 東名高速 浜松IC、浜西ICから約30分。
美術館駐車場、浜松城公園駐車場が通年ご利用いただけます。
特別展・企画展開催中は浜松市役所駐車場もご利用いただけます。